



COVER PHOTO

NODA・MAP第22回公演
「贗作 桜の森の満開の下」

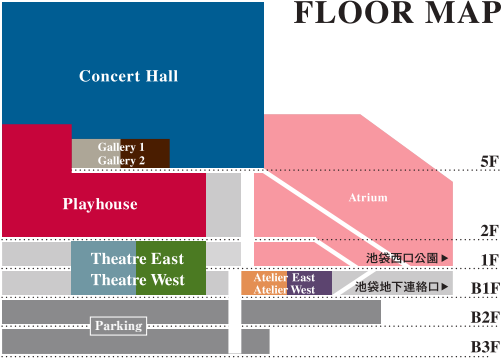
9月1日(土)～12日(水)／11月3日(土・祝)～25日(日)
プレイハウス

坂口安吾作品集より

作・演出：野田秀樹

出演：妻夫木聡 深津絵里 天海祐希 古田新太
秋山菜津子 大倉孝二 藤井隆 村岡希美
門脇麦 池田成志 銀粉蝶 野田秀樹

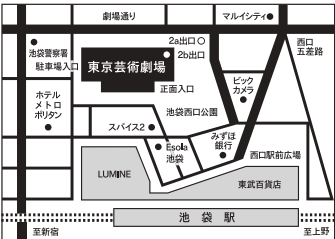
東京
芸術
劇場
Tokyo
Metropolitan
Theatre



1F 東京芸術劇場ボックスオフィス
(チケット・観客案内カウンター)
予約
お問合せ | **0570-010-296**
(休館日を除く10:00～19:00)

5F 託児サービス
東京芸術劇場で公演ご鑑賞のお客様の
お子様をお預かりします。(要予約)
HITOWAキャリアサポート株式会社 わらべうた
お問合せ | **0120-415-306**
(平日9:00～17:00)

B2F・B3F 東京芸術劇場駐車場
| 利用料金 | 300円/30分
| 営業時間 | 7:00～24:00
| お問合せ | **03-6914-0019**



〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
| 開館時間 | 9:00～22:00 (休館日を除く)
| お問合せ | **03-5391-2111**
JR. 東京メトロ・東武東上線・西武池袋線池袋駅西口より
徒歩2分。池袋駅地下通路の2b出口に直結しています。

〈東京芸術劇場パートナー協賛企業・団体 ご芳名〉東京芸術劇場の年間事業運営に賛同し、ご支援してくださっている方々です。			
アサヒグループホールディングス株式会社	株式会社ジェイアール東日本ビルディング	常盤興業株式会社	三菱地所株式会社
住友生命保険相互会社	JXTGホールディングス株式会社	凸版印刷三幸会	株式会社三菱UFJ銀行
Bloomberg L.P.	株式会社資生堂	西池袋熱供給 株式会社	ミュージックスタジオ・フォルテ
キッコーマン株式会社	西武鉄道株式会社	日本生命保険相互会社	ヤマハサウンドシステム株式会社
住友化学株式会社	ソニー銀行株式会社	日本電信電話株式会社	有限会社ユーシーベンディング商会
トヨタ自動車株式会社	第一生命保険株式会社	びあ株式会社	養老乃瀧株式会社
.....	大和証券株式会社	東日本旅客鉄道株式会社 池袋駅	読売新聞東京本社
アサヒグループ食品株式会社	株式会社竹中工務店	フジテック株式会社	立教大学
株式会社イープラス	多摩美術大学	株式会社 フジテレビジョン	株式会社ルミネ 池袋店
ANAホールディングス株式会社	株式会社帝国ホテル	HOTEL URBAN(ホテルアーバン)	レンゴー株式会社
オルガノ株式会社	株式会社TBSテレビ	ホテルメトロポリタン	株式会社ローソンエンタテインメント
香山壽夫建築研究所	株式会社テレビ朝日	株式会社 松田平田設計	株式会社 WOWOW
国際興業株式会社	株式会社テレ・ポーズ	株式会社 松村電機製作所	渡邊建設株式会社
株式会社サンシャインシティ	東京地下鉄株式会社	丸茂電機株式会社	
三精テクノロジーズ株式会社	東京臨海熱供給株式会社	株式会社ミクシィ	
サントリーホールディングス株式会社	東武鉄道株式会社	三菱重工業株式会社	
	株式会社東武百貨店		
			他 匿名5法人 2018年6月25日現在

※東京芸術劇場では、パートナー協賛の申し込みを随時受け付けております。詳細は、公式HPをご覧ください。事業調整係担当まで直接お問合せください。 Tel. 03-5391-2116

芸劇 BUZZ vol.24 2018年7・8・9月号

【編集・発行】東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 【編集・デザイン】COM Works 【印刷】(株)技芸堂

平成30年6月25日発行

芸劇 BUZZ

TOKYO METROPOLITAN THEATRE EVENT INFORMATION

vol.24 2018

7.8.9.



特集・PICKUP

ボンクリ・フェス2018

コンサートオペラvol.6
藤倉大／歌劇『ソラリス』

海外オーケストラシリーズ
バイエルン放送交響楽団／
パリ管弦楽団

芸劇ウインド・
オーケストラ・アカデミー
アトリウムコンサート

ブラスウィーク2018

藤田貴大新作公演
「BOAT」

NODA・MAP第22回公演
「贗作 桜の森の満開の下」

カミュー・ボワテル
「MAー間」プロジェクト

永井愛×長田育恵
「自作自演」〈第16回〉

ハイバイ／
グループる・ばる

OUDS来日公演「十二夜」／
芸劇+まちがく／にゅ〜盆踊り／
東京フラフェスタin池袋／大道芸

CALENDAR

7月・8月・9月

Tokyo Met SaLaD Music Festival 2018
[サラダ音楽祭]

INTERVIEW

東京芸術劇場

芸術監督 野田秀樹



ボンクリ・フェス2018 “BornCreative” Festival 2018 アーティスティック・ディレクター：藤倉大

芸劇に世界中の「新しい音」が集まる 「ボンクリ」が帰ってくる！

世界が注目する作曲家、藤倉大がセレクトした
オーバージャンル^①の音楽を1日にギュッと凝縮。
今年はよりパワーアップし、9月に開催される。

誰もがクリエイティブに音楽を楽しめるボンクリ

昨年、多くの音楽祭でにぎわうゴールデンウィークに突如登場し話題を集めた「ボンクリ・フェス」が、今年も9月24日に開催されることになった。この音楽祭はいまや世界各地の現代音楽祭で引っ張りだこの作曲家、藤倉大がアーティスティック・ディレクターを務める1日限りの音楽イベントで、テーマは「新しい音」、世界中の「新しい音」が聞ける1dayフェス、だ。

タイトルの「ボンクリ」は「ボーン・クリエイティブ」の略。人は皆、生まれつきクリエイティビティを持っていて、たとえば子供はみんな「変な音」が好きだ、という藤倉の子供向けワークショップ体験が出发点。そうした好奇心は子供のころのままでいいんだよ、ということ、いま生まれたての「新しい音」で示したいという藤倉の思いが込められている。

昨年のボンクリでは、藤倉が世界各地よりセレクトしたクラシック、雅楽、電子音楽や実験的ジャズなどの演奏やワークショップが、東京芸術劇場全体で朝から夜まで同時多発的に行われた。なにより興味深かったのは、藤倉がジャンルを問わず集めてきた「新しい音」に反応し、普段クラシックや現代音楽を聴く層にとどまらず多様な音楽ファンが集まっていたことだ。年齢層も子供からシニアまで幅広く、赤ちゃんを連れた友人にも出会った。そして

9月24日(月・休)
ディタイム・プログラム 11:00～17:00 館内各所
赤ちゃんからシニアまで楽しめるアトリウム・コンサートや、ワークショップ・コンサートを館内各所でおこないます。
誰でも楽しめる! 無料プログラム ■アトリウム・コンサート ■電子音楽の部屋(入退場自由)
スペシャル・コンサートのチケットで楽しめる! ワークショップ・コンサート
「スペシャル・コンサート」、または「スクリームの部屋」のチケットをお持ちのお客様は、ワークショップ・コンサートにご参加いただけます。
■ノマドの部屋 ■合唱の部屋 ■チェロの部屋 ■ノルウェーの部屋
■パーカッションの部屋 ■ルシエの部屋(事前申込制・各部屋定員あり)

皆、じつに自由に音楽を楽しんでいた。あちこちでお客さんと話をしながらフットワークも軽く劇場中を動き回るTシャツ姿の藤倉が、なによりもこのフェスの特徴を表していたように思う。

「新しい音」を昼夜問わず自由に体験しよう

夏のプログラムではアトリウムや、館内各所に設けられる「ノマドの部屋」「チェロの部屋」「ノルウェーの部屋」などのテーマ別の「部屋」でコンサートやワークショップが繰り広げられる。なかにはアトリウムでのコンサートや「電子音楽の部屋」のように入場無料、入退場も自由なものもあるので、まずはボンクリを体験してみたいという人にはおすすめです。

今年の個人的な注目ポイントは「合唱の部屋」「パーカッションの部屋」「ルシエの部屋」。「合唱の部屋」ではサウンドスケープの提唱者としても知られるカナダの作曲家マリー・シェーファーにスポットを当てる。カールスルーエを拠点に活動する打楽器奏者イサオ・ナカムラ(僕はこの人以上に楽しそうに現代音楽を演奏する人を知らない!)をフィーチャーする「パーカッションの部屋」では藤倉やカーゲルの作品のほか、即興演奏を展開する。そして音そのものの物理的特性に着目するアメリカ実験音楽の鬼オアルヴイン・ルシエ。ルシエは4月に来日し、ジャンルを問わず多くのファンが詰めかけ超満員のライブとなったことは記憶に新しい。

夜のスペシャル・コンサートでは、アンサンブル・ノマドや「ノルウェーの部屋」に出演するヤン・バングらのジャズミュージシャンなど、各部屋に登場する音楽家たちが一同にそろい、さらには昨年同様、大友良英も加わりオーバージャンルの演奏を繰り広げる。ここでの注目は、シカゴ交響楽団のチェリスト、カティンカ・クラインをソリストに迎えての藤倉の「チェロ協奏曲」の日本初演だ。このスペシャル・コンサートを同時中継で楽しめる、0歳児から参加可能な「スクリームの部屋」も今年も設けられている。

また藤倉は本番直前までなにがおきるかわからない、お楽しみのお宝をあえて残すという。これらの情報はSNSでも頻繁に情報発信されるそう。

東京芸術劇場に「新しい音」が満ちあふれ、来場者も演奏者も自由に音楽を楽しむ日となるボンクリに今年も期待したい。

文：有馬純寿(音楽家)

詳細はP14・P15へ

スペシャル・コンサート 17:30開演 コンサートホール
一夜限りのスペシャル・コンサート。
脳内を刺激する「ボンクリ」音楽が一夜に集結!

■スクリームの部屋 17:30開演 シンフォニースペース(5階)
未就学児をお連れのお客様を対象に、コンサートホールでおこなうスペシャル・コンサートを同時中継でお楽しみいただけるお部屋をご用意しました。



@BornCreativeFes

Dai Fujikura: Opera in 4 Acts

SOLARIS

*Libretto by Saburo Teshigawara [based on Stanislaw Lem's novel “SOLARIS”]

東京芸術劇場コンサートオペラvol.6

藤倉大／歌劇『ソラリス』全幕

日本初演、演奏会形式【日本語字幕付原語(英語)上演】

レムのSF小説を原作とした 新作オペラ、ついに日本初演!

世界初演時のソリストを含めた選りすぐりのメンバーによる、
作曲家・藤倉大 初のオペラ作品。

藤倉大のオペラ《ソラリス》が、いよいよこの秋、東京芸術劇場で日本初演を迎える。

藤倉は、ロンドンをベースに国際的な活動を華々しく展開する作曲家。彼のこれまでで最大規模の作品であると共に、最も充実した成果の一つとも目されるこのオペラは、パリの名門、シャンゼリゼ劇場のほか、フランス、スイスの劇場など、5つの団体の共同委嘱作品として書き下ろされ、2015年、パリで世界初演された後、各地で再演が行われて来た話題作である。

原作は、ポーランドの作家、スタニスワフ・レムが1961年に発表した『ソラリス』。このSF小説に基づく72年公開の映画がアンドレイ・タルコフスキーの名を世界に知らしめたことについては、ここに改めて記すまでもなからう。ちなみに、小説と映画、それぞれが独自の世界を持つものとなっていること、それ故に小説家と映画監督の間に大きな対立が生まれたとのエピソードも、知る人ぞ知るところだ。

藤倉のオペラは、ダンス界の巨匠、勅使川原三郎とのコラボレーションにより生まれた。勅使川原は、台本をはじめ、初演、及びフランス、スイスにおける公演では、演出に加え、装置、照明、衣装などのコンセプトをも手掛けたほか、佐東利穂子、そしてニコラ・ル・リッシュというスター・ダンサーと共に自ら舞台にも立ち、公演大成功の文字通りの立役者ともなっていた。

言わずと知れたレムの古典的名作に、勅使川原は、そして藤倉は何を見出したのか。時は未来、宇宙空間、謎に満ちた惑星を舞台に不可解な事象が展開する『ソラリス』は、もちろん、何よりもまず、サイエンス・フィクションである。と同時に、そこには極めて多層的な広がりがある。異文明との接触などを軸に、哲学的、形而上学的地平を形作ると共に、かたや、自ら命を絶った妻、その「コピー」と主人公との関係を巡る一種のラヴ・ストーリーでもある。あるいは、妻の死に自責の念を持ち続けてきた夫が、妻本人でないばかりか、さらには人間でさえない「コピー」に抱く愛と苦しみ、困惑、錯乱のストーリーを通して、より深く普遍的な命題を問いかけているとも言えようか。

例えば、二人の間で繰り返し交わされる愛の言葉。一見、ありふれた歌詞のようだが、その意味するところは、斯くなるコンテキストにおいては、凡百の「愛の場面」とは一線を画し、一つ一つ、現れる度に大きく姿を変えとも言えるほど、多様だ。

その陰影を藤倉は巧みに描き出していく。

登場人物4人、加えて主人公の「心の声」を語り、歌う舞台裏のもう一人のバリトン、というキャストと室内オーケストラ、そしてライブ・エレクトロニクスを用いた彼のスコアは、緻密にして、極めて効果的なオーケストレーションと相俟って、幻想的、夢想的シーンから激しい対立まで、物語の進行、そして登場人物たちの心象までもを、舞台さながらに描き出す。

作曲家自身が監修する今回の演奏会形式による上演は、藤倉作品の真価を東京の聴衆に問う設えとして、まさに理想的だ。

加えてそこには、彼の音楽の魅力のエッセンスのみならず、作品の創作、及び世界初演において中心を担った勅使川原が求めたものが、鮮やかに透し彫りにされるだろう。

藤倉の最初期のオペラの試み、音大の卒業試験のために書かれた《This could be Beautiful?》(後に撤回・作品表から抹消)をロンドン東部、ホクストンの小さな劇場で観たのは、既に20年近く前のことだ。その後、瞬く間に頭角を顕し、爾来、音楽シーンの最先端を疾走し続けてきた彼からは、多くの管弦楽曲などと並んで、オペラの構想についても様々な話を聞いた。今年初めには、E.A.ポー原作による子供のためのオペラも世に送り出している。

そうした仕事の数々の中でも、『ソラリス』は特別な位置を占める作品である。10月の公演が何より俟たれる。

文：岡部真一郎(明治学院大学教授・音楽学)

10月31日(水) 19:00開演 コンサートホール 詳細はHPへ
ハリー：三宅理恵
クリス・ケルヴィン：サイモン・ベイリー
スナウト：トム・ランドル
ギバリアン：森雅史
ケルヴィン(オフステージ)：ロリー・マズグレイヴ
指揮：佐藤紀雄
管弦楽：アンサンブル・ノマド
エレクトロニクス：永見竜生[Nagie]



東京芸術劇場 海外オーケストラシリーズ

バイエルン放送交響楽団 パリ管弦楽団

独仏2大管弦楽団が競う マーラーの交響曲

ドイツのバイエルン放送交響楽団、
フランスのパリ管弦楽団——
欧州2大オケが再び東京で激突！
クライマックスは東京芸術劇場でのマーラー対決。

よみがえる2年前のあの感動的な名演

マリス・ヤンソンスとバイエルン放送響によるマーラーの交響曲と言えば、2年前の11月に彼らが東京で演奏した「第9番」の快演を思い出す方も多いだろう。そして全曲の最後、安息に包まれて音楽が消えて行ったあと、満席のホール内には息づかいすら聞こえず、やがて指揮者が僅かに身体を動かし、弦楽器奏者が高くあげたままの弓を静かに下ろし終ると、会場全体から微かな吐息が漏れ、それから拍手がゆっくりと巻き起こり、急激に熱狂的に高潮し、ブラヴォーの歓声が交じっていったあの瞬間をも——。彼らの演奏は、それほどまでに感動的だったのである。

その「9番」の演奏では、ヤンソンスの指揮は、温かさに満ちていた。陰翳は濃いが、決して深い憂鬱に陥らない。荒々しくても、マーラーの演奏にありがちな騒がしさはない。バイエルン放送響の演奏も、重厚壮大でかつ均整の取れた響きの美しさなど、さすが世界屈指の楽団らしい風格を備えていたのであった。

一方、ダニエル・ハーディングとパリ管弦楽団が2年前の来日で演奏したマーラーの交響曲は、「第5番」だった。それはバイエルン放送響とはまったく対照的な、開放的で輝かしく、闊達で自由な感興にあふれた演奏だった。別の意味で、見事な演奏だったのである。激烈な大スペクタクル、沸騰し続ける情熱、プリリアントな響きの金管群、艶やかな音色の弦楽器群——。フランス第一の実力を誇るパリ管は、ハーディングの指揮で、久しぶりにその本来の特徴たる華麗な演奏を聴かせたのであった。

ミステリアスな「夜の歌」、意気軒昂な「巨人」

これら名指揮者と名門管弦楽団による各々のマーラーが、再びこの秋に聴けるのは、大いなる喜びだ。演奏が予定されているのは、ヤンソンスとバイエルン放送響が「第7番《夜の歌》」、ハーディングとパリ管が「第1番《巨人》」である。

「7番」は、不思議な交響曲だ。「夜の歌」とは、もともとマーラーが第2楽章と第4楽章につけた題名である。そして第1楽章から第4楽章までは、曲想の動きは多様で多彩であるものの、非常にミステリアスな、時には怪奇な雰囲気さえ感じさせる。ところが、それがなんと最後の第5楽章に至って、いきなり異様な躁の状態になる。この曲が謎めいていると言われる理由の一つ



マリス・ヤンソンス

©Peter Moser



ダニエル・ハーディング

©Orchestre de Paris William Beaucardet

には、このコントラストがあまりに強烈で、しかもその両者がどうも結びつきにくい……ということもあるだろう。

しかし、この第4楽章までの不気味な雰囲気、がまたなんとも魅力たっぷりで、マーラー・ファンの中には、彼の交響曲ではこれが最も面白い、という人も少なくないのだ（私もその一人である）。円熟の域に達した名匠ヤンソンスがこの不思議な大曲をどう構築してくれるか。ドイツの名門バイエルン放送響は陰翳の濃い音色が得意のオケだから、さぞかし聴きものだろうと思う。

一方、「第1交響曲《巨人》」は、マーラーの若書きの作品ゆえ、もっと明るく、生き生きとした躍動にあふれ、確信に満ちている。現在一般に演奏されている「4楽章版」の中で、特に後半の二つの楽章には、いかにもマーラーらしいユニークな個性が聴かれるだろう。第3楽章は葬送行進曲調、第4楽章は激烈な感情の爆発だ。その大詰の頂点は、まさに熱狂の坩堝である。

ハーディングのつくるクライマックスは意外にあっさりしているという傾向があるが、それは彼がロマン派の音楽にはあまり無条件に「のめり込まない」タイプの指揮者であるせいかもしれない。だが、名門パリ管の多彩な音色と、輝かしいパワーに満ちた音色は、特にこの後半の二つの楽章において炸裂するであろう。

この秋、ドイツとフランスの名門オーケストラが真髄を競うマーラーの交響曲。両者の演奏会を併せ聴いて、決して損をした気持にはならないと思う。

文：東条碩夫（音楽評論家）

バイエルン放送交響楽団 詳細はHPへ
11月22日(木) 19:00開演 コンサートホール
指揮：マリス・ヤンソンス
管弦楽：バイエルン放送交響楽団
曲目：マーラー／交響曲第7番 ホ短調「夜の歌」

パリ管弦楽団 詳細はHPへ
12月16日(日) 15:00開演 コンサートホール
指揮：ダニエル・ハーディング
ヴァイオリン：イザベル・ファウスト
管弦楽：パリ管弦楽団
曲目：ベルグ／ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」
マーラー／交響曲第1番 二長調「巨人」



イザベル・ファウスト

©Felix Bröde

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー アトリウムコンサート

無 料

9月～12月 アトリウム(1階)

詳細はHPへ



ランチタイムの気分転換に芸劇へ！

音楽に合わせて身体を動かすのもよし、おにぎりや食後のコーヒースを片手にお友達とお話ししながらもよし、プロに囲まれて演奏するアカデミー生の勇姿を応援するもよし。音楽と、各々の楽しみ方で生まれる笑顔が、開放的なアトリウム中に広がる。そのような時間を、平日のランチタイムに若手演奏家育成プロジェクト「芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー」がお届けします。演

奏はアカデミーに在籍する若き才能のあるアカデミー生と、演奏指導を行う日本唯一のプロフェッショナル吹奏楽団、東京佼成ウインドオーケストラの楽団員によるアンサンブル。木管楽器や金管楽器による温もりのある音色は、音楽の広がりや奥深さへ誘ってくれます。この機会に是非、生演奏の魅力に触れてみませんか？

9月19日(水)／10月2日(火)／10月16日(火)／10月30日(火)
11月28日(水)／12月4日(火)／12月12日(水)／12月20日(木)
各回12:15～12:45

f 芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー
@geikei.wind.orchestra.academy

東京芸術劇場 Presents プラスウィーク2018

9月9日(日)・30日(日)・10月6日(土)・11月29日(木) コンサートホール

3人の名匠が創出するトップ楽団の個性的妙演

最高クラスの吹奏楽団の持ち味を続けて堪能できる、秋恒例の「プラスウィーク」。今年は、西の注目株・広島ウインドオーケストラが初登場を果たす。

まずは東京吹奏楽団。1963年からプロ活動を続ける老舗の彼らは、“親しみやすく、愛される吹奏楽団”のモットーに沿った演奏で、吹奏楽の醍醐味をストレートに伝えてくれる。「創立55周年＆汐澤安彦傘寿(80歳)記念」と銘打った今回は、かつて常任指揮者(現・名誉指揮者)を務めた斯界の重鎮・汐澤の熟達のタクトが必見必聴。“東吹スペシャル”版の「ラプソディ・イン・ブルー」、「汐澤安彦監修」の「展覧会の絵」など、独自のクラシック中心の演目も魅力十分だ。

東京佼成ウインドオーケストラは、日本の看板的な存在。吹奏楽芸術の究極ともいえるハイレードの演奏は、世界で賞賛されている。こちらは、クラシック界の重鎮・秋山和慶の指揮で、リード、ヴァン・デル・ロースト、クレストン、長生淳のオリジナル曲を主軸としたプログラムを披露する。同団の本間千也がソロを吹くジョリヴェのトランペット協奏曲第2番の異空間的なサウンドも大注目。管楽器のブレンドの妙味を存分に満喫できる公演だ。

最後の広島ウインドオーケストラは、創立25周年を迎えた中国地方の雄。2011年音楽監督に就任した下野竜也のもと、“邦人作品”“芸術性を追求した吹奏楽”を核とした意欲的なプログラミングで注目を集め、昨年末のシカゴ公演でも成功を収めた。今回は、大胡恵、西村朗の二作の初演が大胆かつ意義深く、大人気の高昌帥作品や、世界的名手・外園祥一郎がソロを吹く長生淳のユーフォニアム協奏曲も実に楽しみ。この機会に、しなやかで美しい唯一無二のサウンドをぜひ体感したい。

文：柴田克彦（音楽評論家）

9月30日(日) 詳細はP14へ
14:00開演
東京吹奏楽団
指揮：汐澤安彦

10月6日(土) 詳細はHPへ
14:00開演
東京佼成ウインドオーケストラ
指揮：秋山和慶

11月29日(木) 詳細はHPへ
19:00開演
広島ウインドオーケストラ
指揮：下野竜也

9月9日(日) 12:45開演 詳細はP13へ
バンドクリニック
「中・高生のための楽しい吹奏楽」



ボートに乗って、 ここではないどこかへ――

じっくりと関わりを積み重ねてきた、
藤田貴大と東京芸術劇場による待望の新作。
藤田自身の言葉、完全オリジナル作が登場。

東京芸術劇場に待望の新作書き下ろし

野田秀樹の初期作品『小指の思い出』(14年)、寺山修司の『書を捨てよ町へ出よう』(15年)、シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』(16年)――。演劇史に刻まれた名だたる作家の言葉を、同時代性溢れる、これまでにない斬新かつ鮮やかな手つきで立ち上げた藤田貴大。そんな演劇界の次代を担う気鋭がついに、東京芸術劇場で書き下ろし新作を発表する。藤田は、「さらなる到達点を劇場と目指したい」と語る。

「東京芸術劇場での作品では、劇作家よりも演出家の部分をメインに据えて、実験的に空間を構成していくことを試してきました。既成戯曲をバラバラにコラージュし、劇場空間を形づくる。僕だけではなくて、テクニカルのチームも一緒になって“空間をつくること”を考え、成長してきた4年だったと思います。それで、一昨年の『ロミオとジュリエット』では『小指の思い出』で大きく感じたプレイハウスがむしろ小さく思えたんです。劇場との継続的なつきあいの中で共通言語も増えて来ましたし、そうした中で、自分の言葉でもこの空間でやれるんじゃないかと考え始めました」

寓話的な世界をかたちづくる「新しい言葉」

丘の上にある屋敷の三姉妹を描いた『カタチノチガウ』(15年～17年)、狂気をはらんだ少女が殺人を繰り返す『sheep sleep sharp』(17年)……新作『BOAT』は、マームとジブシーで発表されたこの2作品に連なる物語を構想しているという。生まれ育った北海道伊達市の記憶とランドスケープを繰り返し描いてきた藤田だが、この両作は、これまでとはまったく違う寓話的な世界と静かな狂気をまとい、「新しい言葉」が生み出された。

「ここ数年、自分の故郷をモチーフとした作品群からどう離れるかをずっと考えていましたし、自分としては、岸田國土戯曲賞受賞後の“新作”と呼べるのはこの2作品しかないと思っています。どこなのか、いつの時代かもわからない、けれども現在の空気を感じさせるような状況や、おとぎ話に映し出す試み。具体的に書くと限定されてしまうようなことも、フィクションだったら広範囲に手が届くんです。思えば『cocoon』(13年、15年再演)も、沖縄戦をモチーフにした物語でありつつ、日本ではないかもしれないし、未来の戦争かもしれないというつくりになっていましたよね。異文化させていくような『小指の思い出』の言葉、『ロミオとジュリエット』の世界の影響も、自分の劇作に確実に影響を与えていると思っています」



AD：名久井画子 撮影：井上俊田記

中嶋朋子、宮沢氷魚、青柳いづみ、豊田エリーが出演

そんな『BOAT』は、前2作と同じ土地を舞台とした、地続きの物語を構想している。一艘のボートが漂着して繁栄した「ある町」の上空が、ボートと呼ばれる飛行船で埋め尽くされる。それを脅威に思った人たちは、再びボートに乗って逃げ出す……。この静謐な伝承話のようなストーリーの登場人物を演じるのは、藤田自身「時間をかけて実現した、満足いくキャスティング」と力強く語る魅力的な顔ぶれだ。人々が出て行くことを決意する中、“残る事を選ぶ女性”を演じるのは、確かな演技を見せ、映像・舞台で活躍し続ける中嶋朋子。これが初舞台、意志あるまなざしが印象的な宮沢氷魚には、たとえば「カミュの『異邦人』のようなイメージもあって、その土地にとって“よそのもの”であるという役割を演じてもらいたい」とか。繊細さと強靱さを持ち絶大な存在感を見せる青柳いづみ、『ロミオとジュリエット』ではまっすぐでしなやかな演技を見せた豊田エリーといった藤田作品経験者も加え、新たな布陣で新作に挑む。

今年の秋には『書を捨てよ町へ出よう』の再演、そしてパリ公演も決定しているが、そこには演劇人としての“思い”と“誇り”がのぞく。「蜷川幸雄さんをはじめ、先人達が海外公演をやってくれたことを意識したいし、その仕事を引き継いでいきたいと思っている。僕くらいの年齢でも、プレイハウスのようなキャパシティの劇場でしっかり新作を発表していけることが、僕よりも下の世代にとって普通のことになってほしい」

その視線は、常に表現の未来をみつめる。演劇の“次”を目撃しに行こう。
取材・文：川添史子(演劇ライター)


7月16日(月・祝)～26日(木) プレイハウス

作・演出：藤田貴大(マームとジブシー)

出演：宮沢氷魚 青柳いづみ 豊田エリー
川崎ゆり子 佐々木美奈 長谷川洋子
石井亮介 尾野島慎太郎 辻本達也
中島広隆 波佐谷聡 船津健太 山本直寛
中嶋朋子

特設サイト www.geigeki-fujita2018.com

詳細はP10へ



©横山紀昭

藤田貴大×東京芸術劇場 次回作

RooTS シリーズ「書を捨てよ町へ出よう」

10月7日(日)～21日(日) シアターイースト

作：寺山修司

上演台本・演出：藤田貴大(マームとジブシー)

チケット発売：8月11日(土・祝) 予定

詳細はHPへ

NODA・MAP第22回公演

贗作 桜の森の満開の下

坂口安吾作品集より

作・演出：野田秀樹

最強カンパニーで 新たに甦る、伝説的作品

今も多くのファンを持つ野田秀樹の代表作の一つが、
今秋、NODA・MAP公演として甦る。パリでも
上演される本作。期待はますます高まるばかりだ。

心に残る美しい場面を讃える演劇賞があったなら、私はきっと、この作品を推す。野田秀樹の『贗作 桜の森の満開の下』は、それほどまでに鮮烈な印象を残す作品だ。戯曲のベースにあるのは、野田が敬愛する作家・坂口安吾の短編小説『桜の森の満開の下』と『夜長姫と耳男』。そこに歴史観を含む様々な安吾作品のエッセンスと、野田ならではのふんだんな言葉遊びが盛り込まれ、ヒダの匠の弟子・耳男と、無邪気さと残虐さを持ち合わせた美しい夜長姫を軸とした“幻のヒダ王朝”をめぐる壮大な物語がめくるめく展開する。中でも桜の花びらが降りしきる終盤のシーンは、凄絶に美しい。桜の下の永遠の虚空に響く姫の台詞とともに、胸に深く刻まれる。

きっかけは、パリからの“逆指名”

そんな野田秀樹の代表作の一つが、NODA・MAPで甦るのだから、期待せずにはいられない。初演は1989年の劇団 夢の遊眠社による公演で、1992年に再演。2001年には新国立劇場の主催公演として上演されている。また2017年に八月納涼歌舞伎『野田版 桜の森の満開の下』として歌舞伎化もされたが、NODA・MAP公演として上演されるのは今回が初めて。芸劇との共催による東京芸術劇場プレイハウスでの公演のほかに、大阪、福岡公演があり、さらに今夏から来年にかけてフランスで展開される「ジャポニスム 2018：響きあう魂」の公式企画として、パリの国立シャイヨー劇場でも上演される。

実は今回の公演のきっかけは、そのパリの劇場から、「ジャポニスム」の公式企画として『贗作 桜の森～』を上演してほしいと“逆指名”されたことにある。野田がそう明かしたのは、都内で製作発表記者会見が開かれた今年4月のこと。その席で、野田が「せっかく日本を代表して上演するならと、考え得る限り最高のキャストとスタッフに当たって砕けろとオファーをし、これ以上ないカンパニーになった」と紹介した通り、実に魅力的な座組みが実現した。

ひらめきで奇跡的な出会いも実現

耳男役は妻夫木聡。自身の作品に出ている妻夫木を舞台袖から見ている時に、「彼が耳男をやるといいだろうな」と思いつき、自然と『贗作 桜の森～』のワンシーンが浮かんできたと、野田は話す。耳男を翻弄する夜長姫役は、2001年公演でも同役を演じた深津絵里。その深津とは今回が初共演となり、会見で深津が「この作品をやるためにこれまで共演しなかったんじゃないかと思うくらい、奇跡的な出会いのような気がしている」と語った天海祐希が、



オオアマ役。深津と同様に17年前も同役を演じた古田新太がマナコ役、野田がヒダの王役で出演する。

ちなみにオオアマは、耳男、マナコとともにヒダの王に呼ばれ、姫たちのために仏像を彫るよう命じられる“男”。当初、野田はこれまでのように男性の俳優を想定していたそうだが、ふと天海が浮かび、すぐに連絡したという。天海はオファーを即快諾。これが宝塚歌劇団退団後、初の舞台での男役になることに、後から気づいたと笑顔で語っていた。

若い頃の自分と向き合い、新たな演出で再構築

ほかに、秋山菜津子、大倉孝二、藤井隆、村岡希美、池田成志、銀粉蝶と、舞台巧者が勢揃い。早寝姫役でNODA・MAPに初参加する門脇麦にも注目だ。また、オーディションで応募総数約1,000人から選ばれた精鋭18名が、野田ワールドの立体化に欠かせないアンサンブルとして出演。既に行われているワークショップの感触も非常に良いらしい。

演出的には、若い頃の自分と向き合い、自身の中ではもはや“古典”となっている本作品を「ガラッと変えたい」と野田。日本独特の“見立て”を効果的に使うつもりだという。安吾の美学に貫かれた幻想的な伝奇世界と、かねてから“安吾の生まれ変わり”と公言していた野田の才能が融合し、平成元年に生まれた本作品。奇しくも平成最後の秋となる今秋、傑作はどう甦るだろう？ぜひ劇場で目撃したい。

文：岡崎 香(演劇ライター)

9月1日(土)～12日(水)／

11月3日(土・祝)～25日(日) プレイハウス

作・演出：野田秀樹

出演：妻夫木聡 深津絵里 天海祐希 古田新太
秋山菜津子 大倉孝二 藤井隆 村岡希美
門脇麦 池田成志 銀粉蝶 野田秀樹

詳細はP13、HPへ

パリ公演 ～ジャポニスム2018公式企画～

9月28日(金)～10月3日(水) 国立シャイヨー劇場 ※フランス語字幕あり

*大阪、北九州公演あり

日本・フランス国際共同制作

カミュー・ボワテル
「MA一間」プロジェクトフランス現代サーカスの鬼才、
カミュー・ボワテルが、
ふたたび東京芸術劇場に
戻ってくる！

世界が待ちわびる、カミューの新作。日本とフランス、
国際共同制作によるプロジェクトが進行中だ。
今回は日本人アーティストやクリエイターも
参加が予定されている。制作準備に余念がない
カミューに作品の構想を聞いた。

2014年に上演された『リメディア』では崩れ落ちるガラクタの山を這^{ほうほう}うてい
てい体で逃げ延びる人物を、2016年来日公演した『ヨブの話』では、この世のす
べての不幸を背負いながら、なお神々しく輝く人物を描き出した。どこにも見
たことがないような世界、それがカミュー・ボワテルの世界。

孤軍奮闘の可笑しさが際立っていた前述の2作品と違い、今回の新作
『MA一間』の主役はカミューとセヴ・
ベルナルの2人。愛し合う恋人た
ちの設定だが、カミューの恋物語は
一筋縄では行かない。

不可能な愛の物語が、次々に短い
シーンで現れる。役者とオブジェと
舞台装置が、たん、たん、とリズムカ
ルに現れては消える。重力や陰影や
シチュエーションなど様々な要素が、
手を変え、品を変え、形を変えながら



リメディア～いま、ここで

©Vincent Beaume

二人を隔てる。「シーンの長さは色々でも、優劣はつけられない。短いシーン
も、そこに至る照明効果や舞台装置の作りこみなど、膨大なエネルギーを注
いでいるから」と、カミュー。前作『リメディア』を観た人なら、彼の言葉の意味
がよくわかるだろう。大道具・小道具の細かな仕掛けと、とてつもないこだわ
りの集積。目を凝らして何度も見たくなるのが、カミューの作品なのだ。

今回の作品には、日本人のアーティストやクリエイターも登場する。その
一人、笙奏者の井原季子は、カミューが「本能的な感覚を持つ」と評し、綿密
に書き込まれたこの舞台で唯一、柔軟で即興的な要素を担う。デザイナーの
青木淳は、技術者かつ表現者として、作品の重要な仕掛けや技術を担当しな
がら、舞台上に幾度も登場する。

これまで何度となく日本を訪れているカミュー。「あからさまに表現されて
はいないけれど、旅の途中でみた光と影、人々のリズム、はにかみなど、様々
な日本が織り込まれているんだよ」。

カミュー自身が「これまでにないほど正確に台本に書き込んだ、まるで
小さなオペラ」と呼ぶ作品『MA一間』は更に磨き上げられていくことだろう。
その本番に立ち会うまで、待ちきれない！

文：田中未知子（瀬戸内サーカスファクトリー代表／アーティストックディレクター）

9月下旬
シアターイースト 詳細はP14、HPへ振付・演出・出演：カミュー・ボワテル
出演：セヴ・ベルナル 井原季子 ほか

カミュー・ボワテル

「自作自演」〈第16回〉 芸劇＋トーク 異世代作家リーディング

8月2日(木) 16:00開演 シアターイースト

詳細はP11へ



永井愛

長田育恵

世代の異なる作家が自作を読み、語り合う

2011年より不定期で開催している人気企画。世代の異なる2人の作家が、それぞれ自作の短編小説・エッ
セイなどを読み、その後に互いの言葉を聞いて感じたことを語り合う、2部構成で上演。作家が自らの声で届
ける朗読は圧巻。

16回目の今回は、劇作家の女性二人が登場し、その戯曲を取り上げます。作家の世界観を共有し、作品
の新たな魅力に出会える贅沢なひと時をお楽しみください。

出演：永井愛 長田育恵 トーク聞き手：徳永京子
朗読作品：永井愛「ザ・空気」より 長田育恵「神舞の庭」よりハイバイ15周年記念同時上演
「て」
「夫婦」

8月18日(土)～9月2日(日) シアターイースト

詳細はP12へ

8月23日(木)～9月2日(日) シアターウエスト

詳細はP12へ



家族という理不尽を2作、同時上演

人気劇団ハイバイが結成15年を記念し、シアターイーストとウエストで代表作2作を同時上演。イー
ストの『て』は、家族が仕絶な喧嘩をしている部屋で静かに息を引き取った祖母の死を中間点に、その
前と後の一家のわずかな変化を描いた物語。『夫婦』は、『て』一家の暴君だった父が、職場では慕われ
ていたこと、苦しみながらも母が離婚しなかった理由、尽くしたはずの医療に裏切られた皮肉を、父を
憎んでいた息子がたどる物語。どちらも作・演出の岩井秀人の実体験から生まれた作品だが、そんな経
験のない人さえ「これは私の家族の物語」と感じる切実さと間抜けさが全編に漂う。『て』の母親役に浅
野和之、『夫婦』の母親役に山内圭哉というキャストिंगも魅力的だが、『夫婦』の父親役を岩井自ら
演じるのが最大の見どころだろう。強く結ばれた2作、どちらも観たい。

文：徳永京子

作・演出：岩井秀人

「て」 出演：浅野和之 平原テツ 田村健太郎 安藤聖 岩瀬亮 長友郁真
今井隆文 能島瑞穂 湯川ひな 佐野剛 松尾英太郎 猪股俊明

「夫婦」 出演：山内圭哉 菅原永二 川上友里 遊屋慎太郎 瀬戸さおり 渡邊雅廣 八木光太郎 岩井秀人

グループ・ばる「蜜柑とユウウツ ～茨木のり子異聞～」

9月13日(木)～23日(日・祝) シアターイースト

詳細はP14へ



撮影 吉川舞子

待望の再演で、有終の美を飾る

コメディもシリアスも力みなく説得力を持たせる演技で、数々の舞台、映像で引っ張りだこの
松金よね子、岡本麗、田岡美也子。この3人が32年前、「等身大の女性を演じたい」と演劇ユニッ
トを立ち上げた。作家も演出家も自分たちで決めて声をかける俳優発信の企画の、いわば走り
だった。そのグループ・ばるが活動に終止符を打つ。最後に選んだのは、3年前、同じシアター
イーストで上演した『蜜柑とユウウツ～茨木のり子異聞～』。「わたしが一番きれいだったとき」で
知られる詩人・茨木のり子の生涯を、気鋭の長田育恵が執筆、マキノノゾミが演出した作品だ。上
演中から高い評価を得、長田はこの作品で鶴屋南北戯曲賞を受賞した。これをさらに練り上げ、
芸劇をスタート地点にして全国ツアーを敢行する。木野花や小林隆ら初演組も脇を固め、さらに
多くの大人の胸に染みる公演となるだろう。

文：徳永京子

作：長田育恵（てがみ座） 演出：マキノノゾミ

出演：松金よね子 岡本麗 田岡美也子 木野花 小林隆 小嶋尚樹 古屋隆太（青年団）

チケット発売：8月1日(水)

COMING UP NEXT 2018.10～12

演劇・ダンス ラインナップ

10月8日(月・祝)～21日(日)
「ゲゲゲの先生へ」プレイハウス原案：水木しげる 脚本・演出：前川知大
出演：佐々木蔵之介 松雪泰子 白石加代子 ほか

チケット発売：8月4日(土)



佐々木蔵之介

11月下旬
芸劇dance
田中浜 ソロダンス
シアターイースト

田中浜 Photo: Hayato Araki

12月1日(土)・2日(日)・4日(火) *3日(月)休演

芸劇dance 勅使川原三郎
シェーンベルク
「月に憑かれたピエロ」
プレイハウス

photo by Akihito Abe

演出・振付・照明・美術・衣装：勅使川原三郎
出演：勅使川原三郎 佐東利穂子
マリアンヌ・ブスール(歌) ほか

9 SEP ▶ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

東京芸術劇場ボックスオフィス0570-010-296

休館日を除く10:00～19:00

東京芸術劇場ホームページwww.geigeki.jp

休館日 10日(月)

Concert Hall

1日(土) 14:00開演

オーケストラハモン第39回演奏会

出演 富平恭平 (Cond) / オークストラハモン

曲目 ウェーベルン / 夏風の中で
マーラー / 交響曲第6番

料金 S:3,000円 / A:2,000円 / B:1,000円

問合せ オークストラハモン事務局 090-9855-5065

2日(日) 13:45開演

混声合唱団コール・ミレニアム第16回定期演奏会
ミレニアム・ミラクルコンサート

出演 北原幸男 (Cond) / 清水知子 (S) / 菅有実子 (Ms) / 高橋淳 (T) / 与那城敬 (Br) / 野田美香 (Org) / 混声合唱団コール・ミレニアム / ミレニアム カベレ (管弦楽)

曲目 ジョン・ラター / グロリア
サン＝サーンス / 交響曲第3番「オルガン付き」
ブーランク / スターバト・マーテル ほか

料金 S:2,500円 / A:2,000円 / B:1,000円

問合せ コール・ミレニアム 080-3702-2017 / 03-3311-4102

4日(火) 13:00開演

ヴィットーリオ・テッラノーヴァ
国際声楽コンコルソ2018

出演 海道弘昭 / 笹原一 / コンコルソ予選通過者

曲目 主催者指定のイタリアの作曲家から選曲

料金 【全席指定】無料 (鑑賞希望者は主催者まで)

問合せ 日本音楽生涯学習振興協会 078-200-3070

6日(木) 19:00開演

ローマ・イタリア管弦楽団 映画音楽名曲選

出演 ニコラ・マラスコ (Cond) / ローマ・イタリア管弦楽団

曲目 ローマの休日
ティファニーで朝食を
ライフ・イズ・ビューティフル ほか

料金 S:6,500円 / A:5,000円

問合せ インプレサリオ東京チケットセンター 03-6264-4221

8日(土) 14:00開演

「ドラゴンクエスト」
ウインドオーケストラコンサート

出演 大井剛史 (Cond) / 東京佼成ウインドオーケストラ

曲目 すぎやまこういち / ドragonクエスト IV,V,VIより

料金 S:4,500円 / A:3,500円

問合せ キョードー東京 0570-550-799

9日(日) 12:45開演

東京芸術劇場 Presents プラスウィーク2018
バンドクリニック
『中・高生のための楽しい吹奏楽』

参加費 500円 (事前申込制)

問合せ 東京芸術劇場事業企画課 プラスウィーク担当 03-5391-2114

12日(水) 19:00開演

アレクサンダー・ガヴリリェク
ロシア3大ピアノ協奏曲

出演 アレクサンダー・ガヴリリェク (Pf) / ヴァレンティン・ウリュエーピン (Cond) / 東京交響楽団

曲目 チャイコフスキー / ピアノ協奏曲第1番
プロコフィエフ / ピアノ協奏曲第3番
ラフマニノフ / ピアノ協奏曲第2番

料金 S:9,000円 / A:7,000円 / B:5,000円 / C:3,000円

問合せ ジャパン・アーツびあ 03-5774-3040

15日(土) 14:00開演

読売日本交響楽団
第210回土曜マチネーシリーズ

出演 シルヴァン・カンブルラン (Cond) / アンドレイ・イオニーツァ (Vc) / 読売日本交響楽団

曲目 チャイコフスキー / 幻想序曲「テンペスト」、
ロココ風の主題による変奏曲、交響曲第4番

料金 S:7,500円 / A:5,500円 / B:4,500円 / C:4,000円

問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

16日(日) 14:00開演

読売日本交響楽団
第210回日曜マチネーシリーズ

出演 シルヴァン・カンブルラン (Cond) / アンドレイ・イオニーツァ (Vc) / 読売日本交響楽団

曲目 チャイコフスキー / 幻想序曲「テンペスト」、
ロココ風の主題による変奏曲、交響曲第4番

料金 S:7,500円 / A:5,500円 / B:4,500円 / C:4,000円

問合せ 読響チケットセンター 0570-00-4390

17日(月・祝)

トークショー・メット・サラダ・ミュージック・フェスティバル2018
TOKYO MET SaLaD MUSIC
FESTIVAL 2018「サラダ音楽祭」

13:00開演
OK! オークストラ 赤ちゃんOK! 歌ってOK! 踊ってOK!

出演 大野和士 (Cond) / 東京都交響楽団 / 矢部達哉 (Con.Mas) / 小林顕作 (司会) / コンドルズ (ダンス) / 東京少年少女合唱隊

曲目 すぎやまこういち / 交響組曲「ドラゴンクエストV」より「序曲」
ブラームス / ハンガリー舞曲第5番 ※指揮体験コーナー
ディズニー・ファンタスティック・メドレー
ストラヴィンスキー / バレエ組曲《火の鳥》(1919年版)より抜粋
みんなで一緒に歌おう!

観覧券 【全席指定】一般:1,500円 / 子供(3歳以上～高校生):500円
※2歳以下膝上無料(大人1名につき子供1名まで)

19:00開演
音楽祭メインコンサート「ブルミエ・ガラ」

出演 大野和士 (Cond) / 東京都交響楽団 / 矢部達哉 (Con.Mas) / 近藤良平 (振付・ダンス) / コンドルズ (ダンス) / 吉野直子 (Hp) / 光岡曉恵 (S) / 藤木大地 (T) / 小林大祐 (Br) / 新国立劇場合唱団 / 東京少年少女合唱隊 ほか

曲目 第I部 多彩なソリストによるクラシックの名曲
第II部 オルフ / 世俗カンタータ《カルミナ・ブラーナ》
S:5,000円 / A:4,000円 / B:3,000円 / C:2,000円
サラダ割引: S～B席定価より10%オフ (200席限定)
※25歳以下、65歳以上、ハンディギャップ手帳をお持ちの方
とその介添者1名まで対象

問合せ サラダ音楽祭 事務局 03-5444-2786

BOX 東京芸術劇場ボックスオフィスにてチケット
取扱いのある公演 (取扱いのない券種もございます)

・プログラム、出演者等に変更が出る場合がございます。
最新情報は、各お問合せ先までご確認ください。
・原則未就学児のご入場はお断りしています。
・※は劇場ボックスオフィスで前売のみ取扱い。
・年齢割引チケットは枚数限定・要証明書。

19日(水) 19:00開演

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会

出演 角田綱亮 (Cond) / 学内オーディション合格者 (Pf) / 武蔵野音楽大学管弦楽団

曲目 ベートーヴェン / 《エグモント》序曲、ピアノ協奏曲第4番
ベルリオーズ / 幻想交響曲

料金 【全席指定】1,500円

問合せ 武蔵野音楽大学演奏部 03-3992-1120

21日(金) 19:00開演

陸上自衛隊 東部方面音楽隊 第70回定期演奏会

出演 陸上自衛隊 東部方面音楽隊

料金 【全席指定】無料 (要はがきによる事前申込)

問合せ 東部方面音楽隊 演奏会係 048-460-1711 (内線3640)

22日(土) 14:00開演

東京都交響楽団 第861回定期演奏会

出演 オリヴァー・ナッセン (Cond) / ジャン＝ギアン・クラス (Vc) / ヴォクスマーナ (F.Chor) / 東京都交響楽団

曲目 シェンベルク / 5つの管弦楽曲 (1909年版)
武満徹 / オリオンとプレアデス・チェロとオーケストラのための (1984)
ホルスト / 組曲《惑星》

料金 S:7,000円 / A:6,000円 / B:5,000円 / C:4,000円 / Ex:3,000円

問合せ 都響ガイド 0570-056-057

略語表

アルト(A) / ベース(B) / バリトン(Br) / バス(Bs) / コントラバス(Cb) / チェンバロ(Cemb) / 合唱(Chor) / クラリネット(Cl) / 指揮者(Cond) / コンサートマスター (Con.Mas) / ユーフォニアム(Euph) / 女声合唱(F.Chor) / ファゴット(Fg) / フルート(Fl) / ギター(Gt) / ハープ(Hp) / ホルン(Hr) / マリナー(Mar) / メゾソプラノ(Ms) / オーボエ(Ob) / バイプオルガン(Org) / パーカッション(Per) / ピアノ(Pf) / ソプラノ(S) / サクソフォーン(Sax) / テノール(T) / トロンボーン(Tb) / ティンパニ(Timp) / トランペット(Tp) / チューバ(Tub) / ヴィオラ(Va) / チェロ(Vc) / ヴァイオリン(Vn) / ヴォーカル(Vo)

24日(月・休) 17:30開演

ボンクリ・フェス2018 スペシャル・コンサート

出演 アンサンブル・ノマド (指揮:佐藤紀雄) / 東京混声合唱団 / カティンカ・クライン (Vc) / ヤン・バング (エレクトロニクス) / エリック・オル (エレクトロニクス) / アイヴィン・オールセット (Gt) / ニルス・ベッター・モルヴェル (Tp) / イサオ・ナカムラ (Per) / 大友良英 / 藤倉大 (エレクトロニクス)
サウンドデザイン:永見竜生 [Nagie]

曲目 作者不詳 / ハナクバチャ
オリヴィエ・メシアン / おお、聖なる饗宴
ペーテル・エトヴェシュ / バス・ティンパノのための「雷鳴」
アルヴィン・ルシエ / Sizzles
クロード・ヴィヴィエ / 神々の島
大友良英 / 曲目未定
坂本龍一 / Cantus Omnibus Unus
「Cantus Omnibus Unus」ライブ・リミックス
藤倉大 / チェロ協奏曲 (アンサンブル・ヴァージョン / 日本初演)

料金 S:3,000円 / A:2,000円 / 高校生以下:1,000円*

スクリームの部屋 シンフォニススペース (5階)
未就学児をお連れのお客様を対象にスペシャルコンサートを
同時中継します。0歳から入場可。

料金 大人・未就学児共通:500円* (事前申込制・定員あり)

25日(火) 19:00開演

東京ニューシティ管弦楽団 第120回定期演奏会

出演 ヌーノ・コエリヨ (Cond) / 塚越慎子 (Mar) / 東京ニューシティ管弦楽団

曲目 シューマン / 「序曲、スケルツォと終曲」
伊福部昭 / オークストラとマリimbaのための「ラウダ・コンチェルトータ」
ベートーヴェン / 交響曲第7番

料金 S:6,500円 / A:5,000円 / B:3,500円 / C:2,500円

問合せ 事務局チケットデスク 03-5933-3266

27日(木) 12:15開演

ランチタイム・パイプオルガンコンサート
Vol.128

出演 富田真希 (Org)

料金 【全席自由】500円

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

Playhouse

1日(土)～12日(水)

NODA・MAP第22回公演「眞作 桜の森の満開の下」
坂口安吾作品集より

作・演出 野田秀樹

出演 妻夫木聡 / 深津絵里 / 天涯祐希 / 古田新太
秋山菜津子 / 大倉孝二 / 藤井隆 / 村岡希美
門脇麦 / 池田成志 / 銀粉蝶 / 野田秀樹 ほか

料金 【全席指定】S:10,000円 / A:8,000円 / サイドシート:5,500円 ※25歳以下の方は、サイドシート3,000円にてご購入いただけます。(入場時要証明書)
高校生割引:1,000円 (事前申込制 / 要学生証) ※高校生割引の販売に関する詳細は、2018年8月10日(金)以降、HPでお知らせいたします。

問合せ NODA・MAP 03-6802-6681

Theatre East

1日(土)～2日(日)

ハイバイ15周年記念 同時上演
「て」

公演情報はP.12参照

身体表現劇作 范旅 / 李雄輝 / 木佐真邦子

出演 オーディションで選ばれた日本の演劇系5大学と
中国・中央戯劇学院の学生

料金 【全席自由】一般:2,500円 / 大学生:2,000円 /
高校生以下:500円

問合せ 日本大学芸術学部演劇学科 03-5995-8260

Theatre West

1日(土)～2日(日)

ハイバイ15周年記念 同時上演
「夫婦」

公演情報はP.12参照

作・演出 東恵司

出演 音無美紀子 / 真山章志 / 小林美江 / 上原理生 / 高橋長英

料金 【全席指定】一般…前売:5,000円 / 当日:5,500円
U-25(25歳以下):2,500円 / シニア (60歳以上):4,500円
※U25・シニア券はトム・プロジェクトのみで販売。前売当日とも同料金

問合せ トム・プロジェクト 03-5371-1153

16日(日)～21日(金)

Project Nyx 第19回公演
「星の王子さま」

作 寺山修司 美術 宇野亞喜良 演出 金守珍

出演 水嶋カンナ / 江本純子 / フラワーメグ / 中山ラビ / 黒色すみれ ほか

料金 【全席指定】プレミアムシート:6,000円
一般…前売:4,500円 / 当日:5,000円 / 学生:3,000円

問合せ Project Nyx 03-5799-7404

23日(日・祝)～24日(月・休)

結成50周年記念「乙女文楽公演」

作劇 近松半二 ほか(「奥州安達原」袖萩祭文の段)

出演 ひとみ座乙女文楽

演奏 竹本越孝 / 鶴澤寛也 ほか 踊 桐竹勘十郎 ほか

料金 【全席指定】一般…前売:3,000円 / 当日:4,500円
学生…前売:3,500円 / 学生:4,000円

問合せ 現代人形劇センター 044-777-2228

27日(木)～10月4日(木)

「一初恋2018」

作 土田英生 角色 横山拓也 演出 大江祥彦

出演 モロ師岡 / デビット伊東 / 伊藤裕一 / 小島梨里杏 / 南翔太 ほか

料金 【全席指定】一般:6,800円

問合せ オレガ 03-6427-3847

28日(金) 19:30開演

日本フィル コンチェルト×コンチェルト!!
Vol.2 (サンデーコンサートスペシャル)

出演 藤岡幸夫 (Cond) / 田部京子 (Pf) / 日本フィルハーモニー交響楽団

曲目 ウェーバー / オペラ《魔弾の射手》序曲
モーツァルト / ピアノ協奏曲第21番
グリーグ / ピアノ協奏曲

料金 S:5,000円 / A:4,000円 / B:3,000円 / Gs:3,000円 /
Ys:1,500円

問合せ 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

29日(土)

豊島区吹奏楽団コンサート
13:00開演

出演 大釜宏之 (Cond) / 豊島区吹奏楽団

曲目 保科洋 / 復興
小倉朗 / 管弦楽のための舞踏組曲 ほか

豊島区管弦楽団コンサート
18:30開演

出演 和田一樹 (Cond) / 冨永愛子 (Pf) / 豊島区管弦楽団

曲目 ベルリオーズ / 歌劇「ベンベヌート・チェルリーニ」序曲
チャイコフスキー / ピアノ協奏曲第1番、交響曲第6番「悲愴」

25日(火) 19:00開演

東京ニューシティ管弦楽団 第120回定期演奏会

料金 【全席指定】前売:1,000円 / 当日:1,200円 /
中学生以下:無料 (要予約) / セット券:1,500円 (前売のみ)

問合せ としまチケットセンター 03-5391-0516

30日(日) 14:00開演

東京芸術劇場 Presents プラスウィーク2018
東京吹奏楽団「第65回定期演奏会」
創立55周年&汐澤安彦傘寿記念《東吹×汐澤》

出演 汐澤安彦 (Cond) / 東京吹奏楽団

曲目 J.ヘルメスベルガー (高橋徹 編) / 悪魔の踊り
保科洋 / 風紋
ジャブリエ (ハインズレー編) / スペイン狂詩曲「エスパナ」
ガーシュウィン / ラプソディ・イン・ブルー (東吹スペシャル)
ムソルグスキー (ラヴェル編・汐澤安彦監修) / 展覧会の絵

料金 【全席指定】一般 (1&2階席):4,000円 /
高校生以下 (3階席):1,500円*

問合せ 東京吹奏楽団 03-5937-5205

下旬 ※詳細は後日発表

日本・フランス国際共同制作
カミュー・ボワテル
「MA ー間」プロジェクト

演出 カミュー・ボワテル

出演 カミュー・ボワテル / セヴ・ベルナル / 井原季子 ほか

料金 未定

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

7・8・9
JUL AUG SEP

東京芸術劇場ホームページ www.geigeki.jp

Gallery 1 (5F)

1日(日)～4日(水)

第25回臨書と自由書作品展
ーセカイ・心・きくー

問合せ 高橋 03-3371-5123

5日(木)～8日(日)

2018年国際書画選抜展

問合せ 国際書画連盟 03-6459-0612

11日(水)～15日(日)

第7回よみうり美術展

問合せ 檜垣 03-3642-4301

16日(月・祝)～22日(日)

第24回新和様・漢字造型書
作家協会選抜展

問合せ 石橋 03-3234-3956

26日(木)～30日(月)

第41回東京都高等学校
文化祭写真部門A・B地区大会

問合せ 都立南葛飾高校
金澤 03-3691-8476

1日(水)～5日(日)

ネイチャーズベストフォトグラフィー
アジア展 2018

料金 500円(学生・子ども無料)
問合せ 一般財団法人ネイチャーズベストフォト
グラフィーアジア 03-6205-7529

8日(水)～12日(日)

第50回記念書華会展

問合せ 西尾 03-3964-7421

19日(日)～22日(水)

第15回記念《書統》全国展

問合せ 美術新聞社
カヤハラ 03-3462-5251

23日(木)～29日(水)

第33回日本の海洋画展

問合せ 一般財団法人全日本海員福祉センター
03-3475-5391

30日(木)～9月2日(日)

Gallery 1・2同時開催
第29回
日中友好自詠詩書交流展東京展

問合せ 事務局長 中村 03-3837-4445

4日(火)～9日(日)

2018 全日本山岳写真展

問合せ 村田 090-8642-8808

12日(水)～17日(月・祝)

Gallery 1・2 Atelier East-West同時開催
KENZAN2018

問合せ 小路 070-6559-2532
03-6805-6365

24日(月・休)

Gallery 1・2同時開催
ボンクリ・フェス2018
ワークショップ・コンサート

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス
0570-010-296

25日(火)～30日(日)

秋の日本水墨画展

問合せ 竹中 048-474-2239

6月25日(月)～1日(日)

生誕100周年記念小林邦二展
ひたむきに画道へ 朴直な野性

問合せ 小林 070-1443-0051

7日(土)～8日(日)

大東文化大学書道部 臨書展

問合せ 千田 070-5306-5525

12日(木)～15日(日)

第1回ART QUILT 三井塾・塾生展

問合せ 白田 090-3508-8362
048-262-4994

20日(金)～22日(日)

第9回豊峯會書展

問合せ 堀井 03-3971-0620

7日(火)～11日(土・祝)

Kendai展

問合せ 福田 080-4265-5757

25日(土)～27日(月)

青展

問合せ 柿本 080-3730-3670

30日(木)～9月2日(日)

Gallery 1・2同時開催
第29回
日中友好自詠詩書交流展東京展

問合せ 事務局長 中村 03-3837-4445

3日(月)～9日(日)

第27回 筆之友書展

問合せ 書道奨励協会 049-244-2222

12日(水)～17日(月・祝)

Gallery 1・2 Atelier East-West同時開催
KENZAN2018

問合せ 小路 070-6559-2532
03-6805-6365

24日(月・休)

Gallery 1・2同時開催
ボンクリ・フェス2018
ワークショップ・コンサート

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス
0570-010-296

26日(水)～30日(日)

第20回日本伝統手工芸
巧技ソサエティー美術展

問合せ 浅賀 03-3393-0168

6月27日(水)～1日(日)

利根川秀佳書道教室展

問合せ 利根川 090-1803-8387

2日(月)～8日(日)

2018 第26回
フォトクラブグランプリ写真展

問合せ 舘野 090-2740-6443

13日(金)～15日(日)

一会展～木洩れ日の書～

問合せ 酒井 048-824-2236

16日(月・祝)～22日(日)

「夜は照すよ」展

問合せ 三須 090-2631-0502

24日(火)～30日(月)

三軌会写真部
第12回東京多摩支部展

問合せ 支部長 塚田 090-4953-3162
042-474-6443

31日(火)～8月5日(日)

東風会 第11回作陶展

問合せ 岸田 0422-43-8394

7日(火)～12日(日)

第3空間 Tokyo Parnassus

問合せ 松崎 03-3972-1476

19日(日)

寺子屋塾2018
ー舞台美術家養成講座ー

問合せ 秋山 090-1730-4751

20日(月)～23日(木)

サロンDEポンドール会員展

問合せ 浜崎 03-5932-1518

24日(金)～26日(日)

「さくら会」積穂俳画展

問合せ 井原 045-981-6407

30日(木)～9月2日(日)

第14回 日本画 一会の会展

問合せ 佐藤 03-3870-2153

3日(月)～9日(日)

火洋会

問合せ 天辻 042-421-2951

12日(水)～17日(月・祝)

Gallery 1・2 Atelier East-West同時開催
KENZAN2018

問合せ 小路 070-6559-2532
03-6805-6365

24日(月・休)

Atelier East-West同時開催
ボンクリ・フェス2018
電子音楽の部屋

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス
0570-010-296

26日(水)～30日(日)

第3回写真の社合同作品展
「写真は手紙」

問合せ 富田 090-8840-1652

5日(木)～8日(日)

美しき押し花絵展

問合せ 大丸 03-3964-5376
090-5500-4191

11日(水)～15日(日)

第7回キャンソフォトクラブ
東京DEMI写真展

問合せ 石川 090-4669-1131

17日(火)～22日(日)

第47回くれよん展

問合せ 河洑 080-5038-9293
03-3911-9293

29日(日)

錦花池坊夏季研究会習作展

問合せ 加藤 090-8492-9853

3日(金)～5日(日)

puanani
ハワイアンキルト展

問合せ 飯田 090-4392-2472

9日(木)～12日(日)

第17回 佑育書道会 佑友展

問合せ 山田 090-3483-0826

15日(水)～18日(土)

関谷文男 油絵個展

問合せ 関谷 090-6318-4960

19日(日)～22日(水)

グループ恵展 第42回展

問合せ 大野 080-6646-4760
046-276-7376

24日(金)～28日(火)

あきづ会 目白仲田書道教室
生徒作品展

問合せ 仲田 03-3950-1579

30日(木)～9月2日(日)

2018年第1回 花文字展
幸せをつなぐ和のころ

問合せ 福岡(國井)
090-3914-3839

3日(月)～9日(日)

写談撞んぼ 20周年
第13回写真展

問合せ 古谷 03-3487-3435

12日(水)～17日(月・祝)

Gallery 1・2 Atelier East-West同時開催
KENZAN2018

問合せ 小路 070-6559-2532
03-6805-6365

24日(月・休)

Atelier East-West同時開催
ボンクリ・フェス2018
電子音楽の部屋

問合せ 東京芸術劇場ボックスオフィス
0570-010-296

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (休館日を除く10:00～19:00)

オックスフォード大学演劇協会(OUDS)来日公演「十二夜」

8月7日(火)・8日(水) シアターウエスト

詳細はP11へ



英国の若者達が創るシェイクスピアの世界

1885年創立の歴史と伝統を誇るオックスフォード大学演劇協会(OUDS)は、シェイクスピア作品の原語上演が好評なイギリスの由緒正しい学生劇団であり、常に若い才能を育み続けています。“Mr.ピーン”ことローワン・アトキンソンをはじめ、ヒュー・グラント、フェリシティ・ジョーンズなど、世界で活躍する数々のスターを輩出しています。

今回はそんなOUDSの2年ぶりの来日公演が決定！思い込みが引き起こす恋のドタバタを描いたシェイクスピアの喜劇「十二夜」をお送りします。大学生ならではの現代的な感性による表現と、クイーンズイングリッシュの美しい台詞の響きをお楽しみください。

また、本公演は若い世代の国際交流事業として、日本の学生ボランティアがサポートに関わり、OUDSメンバーと共に公演を創り上げています。シェイクスピア作品を通して育まれる、日英間の文化交流にも期待がされるプログラムです。

作:ウィリアム・シェイクスピア 演出・出演:オックスフォード大学演劇協会(OUDS)

彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 8月5日(日)

京都芸術劇場 春秋座(京都造形芸術大学内) 8月11日(土・祝)

芸劇+まちがく

7月13日(金)・9月 アル・テアトロ(2F)

詳細はHPへ

芸
劇
+
ま
ち
が
く

文化を軸にした地域の在り方や街づくりについて考えるフォーラム「芸劇+まちがく」。2018年1月より、毎奇数月に開催しています。アートが持つポテンシャルを活用した街づくりのパイオニアである北川フラムをモデレーターに迎え、アート、文学、演劇、音楽、建築等を切り口に、各回テーマに即したゲストをお招きし、これからの文化と街づくりの関係について考えていきます。

【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116

第16回東京フラフェスタin池袋2018 無 料

7月20日(金)～22日(日) 池袋各所



日本で最大級のフラダンスイベント！歴代代表チームによる華麗なフラの演舞や人気講師の特別演舞、ハワイアンバンドの演奏のほか、ハワイアンジュエリーや雑貨、フラダンス衣装、ハワイアングルメ・ご当地グルメなどの屋台も出店されます。1日の最後には、全員が一緒になって踊る「みんなで踊ろう！フラナイト」を開催。池袋のまちがフラ一色に染まる3日間、様々なハワイの文化をご堪能ください。

【日程】前夜祭:7月20日(金)／本祭:7月21日(土)～22日(日)

【会場】池袋西口公園、池袋西口駅前広場、東武百貨店8Fスカイデッキ広場 ほか

【お問合せ】豊島区観光協会 03-3981-5849

【URL】www.kanko-toshima.jp/Event/event_05.html

近藤良平・コンドルズ にゅ～盆踊り 無 料

7月15日(日) 池袋西口公園



池袋・夏の風物詩「にゅ～盆踊り」！今年は7月15日に開催！

近藤良平・コンドルズと一緒に、夏の池袋で盆踊り大会に参加しませんか？毎年大好評の「にゅ～盆踊り」今年も開催が決定しました！近藤良平・コンドルズならではのユニークな仕掛けも満載、子どもから大人まで、踊って笑って楽しめるお祭りです。盆踊りリーダーとして当日を盛り上げるもよし、ふらっと遊びにきていただくもよし。今年も、皆さんご一緒に！

【お問合せ】あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) 03-5391-0751

【URL】www.owlspot.jp

集まれ！池袋みんなの大道芸 無 料

9月の週末 劇場前広場

詳細はHPへ



選りすぐりのストリートパフォーマーによる「集まれ！池袋みんなの大道芸」をゴールデンウィークに引続き9月に開催。パントマイム、コメディ、ジャグリング、ウォーキングアクト、ペインティングなど、劇場前広場が大道芸で染まります。

ボールやディアボロなどの大道芸のテクニクを気軽に体験できる「チャレンジ広場」も同時開催！

【お問合せ】東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116



TOKYO METROPOLITAN THEATRE
ARTISTIC DIRECTOR
HIDEKI NODA

ONE'S
voice
VOICE.24

ロングインタビュー 野田秀樹
東京芸術劇場芸術監督

集まった人たちが自分たちで 動き出す“場”をつくりたい

劇団 夢の遊眠社時代のエディンバラ演劇祭、留学、『赤鬼—RED DEMON—』の挑戦と挫折、

『THE BEE』の成功と、野田秀樹の演劇人生にとって、ひとつの重要なメルクマールとなっていたイギリス。

この4月～5月にかけては、ロンドンで注目度の高い劇場のひとつ、

ソーホー・シアターで『One Green Bottle』を上演した。

同作のルーマニア・シビウ演劇祭での上演を控え、着実に国際的になりつつある活動と、

世界的な人脈を活かした東京芸術劇場での俳優育成について聞いた。

イギリスで初めて、自由に演技ができた

—— 『One Green Bottle』ロンドン公演は、かなりの数の劇評が出て、大半が好意的な内容でした。野田さんご自身はどう反応を感じていらっしゃいましたか？

野田 舞台上立っている時から手応えがありました。これまでの作品は、カーテンコールが来るまで反応がわからなかったんですけど、『One Green Bottle』は喜劇性が強いからでしょう、最初から客席のリアクションがぼんぼん来て、ノってくれているのがよくわかりました。そういう意味では、役者として初めてイギリスで自由に演技ができたというか、日本と同じような感覚でやれました。

—— 野田さんが俳優に集中できたというのは、7年前の『表に出ろいっ!』とははっきりと違う作品になったということですね。

野田 そうですね。完全に違う作品になったと思いました。

—— キャサリン・ハンターさん、グリーン・プリチャードさんという素晴らしい共演者の力もあったと思いますが、全編を翻訳して英語で上演したことが、新たな発見につながったのでしょうか？

野田 翻訳を丁寧にやったことはとても大きかったです。「翻訳が上手く行っている」「言葉が面白い」という感想をたくさんもらいました。担当してくれたウィル・シャープは、若いけれど才能豊かで、自分で作・演出をすることもあって、稽古場で一緒に考えることを厭わない人。それがすごく良かったと思います。

—— 生きた言葉を探してきて、選ぶ力のある方なんですね。

野田 だから逆に、嫌いという人もいましたが。と言ってもウィルだけのせいではなくて、僕の戯曲に生きた言葉から生まれる下品な表現があるからなんです(笑)、それを英語で言う時に、いくつかある候補の中で1番下品なものを選ぶのが彼で(笑)。たとえば、イギリス人にとって、言っても聞いてもドキッとする言葉を使うべきか別の表現にするか、初日の朝ギリギリまで考えて、言うことを選んだんです。すると案の定、その単語をキャサリンが言った途端、客席の空気が一瞬、スッと引いた。それで舞台上の僕も「あ!」という顔になり、お客さんの反応も僕の気持ちも察したキャサリンが、その感情の

まま、せりふでもある「sorry」と言ったのがドツとウケたんです。

—— 今回の反応のビビッドさは、これまでの野田さんの作品を観たことがある人がベースになっていたりするのでしょうか？

野田 そこはよくわかりませんが、知っている人が増えているのは確かです。その一方で、マチネには、いかにもいつもは庭いじりをしているような、ごく普通の年配のご夫婦が客席に何組もいます。劇場に行くのが日常の習慣になっている人たちが、イギリスにはたくさんいるんですね。彼らは僕たちの名前で見に来たわけではなくて、たまたま来た日がこの演目だった。そうすると、最初は明らかに「ん？ なんだこれは？」と戸惑っている感じなんですけど、終わるととても熱い拍手をくれる。そういうやりがいを感じることも多かったです。

—— 『One Green Bottle』というタイトルは、イギリスの古い数え歌から取り、ラストシーンでその意味がわかるようになっていますが、そこは伝わっていましたか？

野田 タイトルがその歌から来ているというのは、ほとんどの人がわかっていたはずで、最後に「そういうことか」と合点が行ったと思います。それとこの作品の終わらせ方が、イギリスで上演されている多くの舞台と比べると、かなり曖昧さを残しているんです。彼ら(登場人物たち)は死んだのか、死んでいないのかという点を観た人の解釈に委ねています。こういう不明瞭な話は嫌いというイギリス人もまだいますが、以前と比べると、曖昧さに対する許容量はかなり出てきた気がします。この終わらせ方がおもしろい、と評価してくれる人がほとんどでした。

—— このプロジェクトは海外公演を見据えてスタートしたものだと思いますが、6月のルーマニアのシビウ演劇祭でも上演が決まりました。それ以降のご予定は？

野田 ロンドンでやって何が良いかという、各国のプロデューサーが観に来てくれることです。ヨーロッパだけでなく、ニューヨークからも来だし、アジアからも結構、足を運んでくれました。そしてかなり反応が良かったので、オファーは来ると思います。問題は、キャサリンのスケジュールがかなり詰まっていることですね。

—— 『THE BEE』よりも売れそうですか？

野田 こればかりは、時がたたないとわからない。『THE BEE』も「またやらないの?」と言ってくれる人がいますから、今後の上演の予定がゼロではありません。今回も「あの作品のカンパニーがつくった」というので見に来てくれたプロデューサーたちが多かったです。

—— 海外での活動と言えば、パリの国立シャイヨー劇場での3度目の公演も決まりました。シャイヨー劇場では『THE BEE』『エッグ—Egg—』を上演し、野田戯曲が字幕で追いつけるのかという当初の心配をよそに好評を得、ツアーが定番化しつつあります。

野田 そうそう、秋の『贋作 桜の森の満開の下』の宣伝に、ロンドン公演中に1日だけパリに行ったんです。シャイヨーは観客の会員組織を持っていて、会員だけが入場できる年間のラインナップ発表会を開くんです。そこでラインナップされた演出家が各作品について話したり、振付家やダンサーがちょっとしたパフォーマンスをしたりするんですね。その時に劇場の人から「お客の入りの心配はそんなにしないでいいよ」と言われたんです。発表会のあと、参加者からも声をかけられました。まだ2回しか公演をしていないのに、定着している部分があるのかなとうれしくなりましたね。

—— 理由は何だとお考えですか？

野田 フランスの観客は、ダンスやサーカスを見慣れているからか、フィジカルな表現に対する理解が早いし深い。字幕では十分に理解できない言葉の問題より、ビジュアルから受け取るインスピレーションのほうを大事にしてくれる人が多いようです。最初にパリ公演をやった時に、反応が想像以上で驚きました。—— それにしても劇場のラインナップ発表会を、会員だけに向けて開催するというのはおもしろいですね。日本では聞いたことがありません。

野田 発表会の説明やパフォーマンスで「おもしろそうだな、行ってみようか」となる感じ。僕は、今回トップバッターで、つい真面目なトーンで話してしまっていて、あとから結構凝ったパフォーマンスをする人たちがいるのを見て、ちょっと後悔しました(笑)。いつも通りでも良かったのに。でも確かにあの方式はとても良い。会員制の組織化はすぐには難しいでしょうけど、芸劇の今後の活動のヒントにしたいと思いました。最近よくする話ですが、どの劇場でもこのところほとんどの海外カンパニーの来日公演が集客に苦労しています。芸劇も選りすぐりのカンパニーを招聘して素晴らしい作品をやってもらっていますが、パブリシティが弱いのか、空席が目立ってわざわざ来てくれた海外のパフォーマーたちに申しわけないやら情けないやらそんな思いをすることがあります。「今年はこんな演目をやります」という会見をお客さんに向けてやるのは、関心も引くでしょうし、偉そうに聞こえてしまうかもしれませんが、観る目が育つことにつながるのではないかと思います。

—— イギリス、韓国、フランスと、作品を上演しながら現地のネットワーク

も増えてきて、例えば、キャサリンさんやグリーンさんと同じようなパートナーシップを結べる俳優との出会いはありそうですか？

野田 もうたくさんいますよ。今回も来てくれて「いつでも秀樹と仕事するから」と言ってくれましたし、僕が「良い役者だな」と思っていた人が初めて観に来てくれて「秀樹のワークショップはどうやって出られるんだ?」と聞いてきました。「日本でしか予定がないんだ」と言ったら「じゃあ日本に行くよ」とまで言ってくれた人もいました。

ひとりの才能が引っ張るより、自主的な集団

—— ワークショップのお話が出たところで、前号のインタビューで俳優養成について、芸劇として活動しているし、さらに継続していきたいというお話がありました。その取り組みの今後のヴィジョンをお聞きたいのですが。

野田 NODA・MAPは、20人前後のアンサンブルを活躍させる作品を10年ぐらい前からつくっていて、シャイヨーで『エッグ—Egg—』を上演した時は、とびきり評判が良かったんです。何人もの役者が連携して動き、さまざまなシンボリックな形をつくったり、一瞬で個別の人物になったりする表現は欧米ではこれほどにはできないと、イギリスの名だたるプロデューサーから賞賛されました。実際、アンサンブルの中には、優秀なパフォーマーも多くて、僕としても、せっかく出会った人たちと1作で別れるのはもったいない気がしていますし、もうひとつ大きいのは、アンサンブルのためのオーディションを開くと、良い役者全部を選ぶことができないこと。そういう人たちも対象に広がりのある緩やかな役者の集団がつかれないかと考えているところです。緩やかさの加減が非常に難しいんですが。

—— 特定の作品のオーディションだと、全体のバランスや男女比率などで、どうしても“水準に達していても選から漏れる人”が出てしまう。

野田 そういうことです。同じタイプだと、どちらかひとりを選ばないといけないです。それとオーディションを3、4日かけて実施していますが、時々、最初は目立たなかったのに3日目ぐらいに急に伸びるタイプがいるんです。たとえば阿部サダヲがそうでした。彼は若い時にNODA・MAPのワークショップに参加しているんです。その前に下北沢の劇場で、宮藤(官九郎)が作・演出した舞台で彼を観ていて、おもしろいと思って声をかけたんですが、短期間ではなかなか良いところを出し切れなかったのを覚えています。でも経験上、初日に目立つ俳優より、だんだん気になってくるタイプのほうが、後々おもしろいんですよ。良い俳優かどうかは1日観ていれば大体わかりますが、伸び代がどれくらいあるかは短期間ではなかなかわかりません。

—— じっくり出会い、時間をかけて関係をつくり、その先に上演があるよ



提供：NODA・MAP

うな、長期的な育成の場をつくりたい、ということでしょうか？

野田 ええ、場をつくることが非常に重要ですね。もちろん誰かひとり才能のある人がいて、そこに集まって来るという形もありますけど、出会う場所を用意して、集まった人がそこから勝手に動いていくほうが成長は大きいと思います。というのは、アンサンブルで知り合った役者たちの何人かが集まって創作を始めたし、リロ・パワー(野田が留学時代に学んだテアトル・ド・コンプリシテの元メンバーで、国際的に活躍する俳優、演出家)のワークショップに参加した役者たちからも「せっかくこうやって出会えたのに、次につなげていく機会がない。芸劇でそういう制度をつくれませんか?」という言葉をもらったりしたんです。

—— 芸劇では、世界レベルの講師を海外から招き、プロの俳優を対象にしたワークショップを不定期に開いています。リロさんのクラスは野田さんのたつての希望で実現し、受講者にも好評で2年連続で開催されたんですよ。野田 その意見は確かにもっともで“オーディションに落ちたら終わり、ワークショップをやって終わり”ではない受け皿は必要かもしれません。

—— そういう人達の稽古見学や発表会を観客に観てもらうのも良いのではないのでしょうか？ 先ほどのシャイヨーの会見のように、演劇ファンにとって、劇場や俳優を身近に感じる好機になると思います。

野田 幸い、講師の候補はたくさんできました。コンプリシテで出会った人達とはリロだけでなく関係が続いていて、結構な面々が『One Green Bottle』を観に来てくれたんです。みんな年は取りましたけど、相変わらず精力的で、ほとんどの人がいろいろな場所で演技や演出を教えている。「日本にも教えに来てもらえる?」と聞いたら、数人から大丈夫だと言ってもらえたので、もしリロのスケジュールがいっぱいでも、代わりを任せられる人は何人かいそうです。—— 芸劇の芸術監督に就任された時から「いつか将来的に、劇場付きの劇団みたいなものが持てたらいい」ということはお話しされていましたね。

野田秀樹 HIDEKI NODA

劇作家・演出家・役者。東京芸術劇場芸術監督、多摩美術大学教授。92年に「劇団 夢の遊眠社」を解散後、ロンドンへ留学。帰国後の93年に演劇企画制作会社「NODA・MAP」を設立。以来『キル』『赤鬼』『パンドラの鐘』『THE BEE』『ザ・キャラクター』『エッグ』『MIWA』『逆鱗』『足跡姫』『One Green Bottle』など、時代に机を穿つ話題作を発表。モーツァルト歌劇『フィガロの結婚～庭師は見た!～』等、オペラの演出、海外の俳優やスタッフとの共同制作、2017年は9年ぶりとなる、『野田版 桜の森の満開の下』で歌舞伎の脚本、演出を手掛け、大きな反響を得る。演劇界の旗手として枠を超えた精力的な創作活動を行う。2015年よりブラジル、東北、東京、京都などで、国内外の多種多様な表現者達と新たな幻想的な表現を創出する文化サーカス「東京キャラバン」を実施。2017年、十八代目中村勘三郎とのタッグが話題となった伝説的作品「表に出るいっし」を、『THE BEE』の最強キャストとともに、新たな英国版『One Green Bottle』として創作。東京、韓国、ロンドン、ルーマニアで上演し、好評を博している。2018年9月～11月、NODA・MAP第22回公演「贋作 桜の森の満開の下」を東京、大阪、北九州、パリで上演予定。世界を駆け巡り、意欲的に活動を展開している。

作・演出:野田秀樹
NODA・MAP第22回公演
「贋作 桜の森の満開の下」

特集はP6へ

【詳細はHPへ】 www.nodamap.com/

取材・文：徳永京子



Photo : Helen Maybanks



Photo : Akira Suemori



東京が新たに動き出す!「SaLaD音楽祭」開幕

2020年のオリンピック・パラリンピックを見据え、東京都交響楽団が新しい音楽フェスティバルを繰り広げる。東京芸術劇場を中心に、ワクワク・ドキドキの音楽体験が待ち受ける!

参加せずにはられない?! 多様なプログラム

東京でまったく新しい音楽祭が生まれる! その名も「トーキョー・メット・サラダ・ミュージック・フェスティバル2018」。気になる「サラダ」という言葉、これは「Sing and Listen and Dance!!」、歌って聴いて踊っちゃおう! という音楽祭コンセプトの頭文字を並べたSaLaDからきている。

このフレッシュな音楽祭をリードするのは東京都交響楽団だ。2015年に大野和士を音楽監督に迎え一段と勢いを増すこのオーケストラは、そもそも1964年の東京オリンピックの記念文化事業としてその翌年に設立された。来たる2020年のオリンピック・パラリンピック・イヤーに向け、都響は次なるレガシーのために動き出した。東京芸術劇場を中心に、池袋の周辺施設も巻き込んで、小さな子どもたちから熟練の音楽ファンまで、みんなが楽しめる音楽祭をスタートさせるのだ。開催は9月17日(月・祝)。誰もが参加できるような、ユニークなプログラムが用意されている。

音楽祭のメインとなる昼夜2つのコンサートは、どちらも大野指揮による演奏。昼は「OK! オーケストラ」と題し、「赤ちゃんOK! 歌ってOK! 踊ってOK!」というOKづくしのコンサート。指揮者体験やダンス体験もアリ。クラシックのリズミカルな作品のほか、交響組曲『ドラゴンクエスト』、ディズニー・ナンバーといった誰もが知る曲をプログラミング。司会にはNHK Eテレの番組「みいつけた!」のオフロスキー役で人気の小林顕作が登場、ダンスには近藤良平率い

るコンドルズが参加する。ジャンルも年代も飛び越えて、みんなで盛り上がるひと時となりそう。夜は「ブルミエ・ガラ」と題するメインコンサート。前半は多彩なソリスト陣を迎えてクラシックの名曲をお届けし、後半は新国立劇場合唱団や東京少年少女合唱隊が参加し、コンドルズによるダンスもコラボレーションする「カルミナ・ブラーナ」が祝祭的な夜を彩る。

芸劇のアトリウムではミニコンサートを開催し、そのほかのスペースでは都響メンバーがサポートする楽器体験コーナーや、親子で参加できる手作り楽器、クラシック音楽とダンスのワークショップなど、参加型のイベントが盛りだくさん。池袋駅や近くの商業施設等での無料コンサートも企画されているから、ワクワク・ドキドキが止まらない特別な1日になりそう。今年の「芸術の秋」は、サラダ音楽祭でスタートさせよう!

文:飯田有抄(クラシック音楽ファシリテーター)

トーキョー・メット・サラダ・ミュージック・フェスティバル
TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2018[サラダ音楽祭]
9月17日(月・祝) 詳細はP14へ

■OK!オーケストラ 赤ちゃんOK!歌ってOK!踊ってOK!
13:00開演 コンサートホール

■音楽祭メインコンサート〈ブルミエ・ガラ〉カルミナ・ブラーナ×Dance!!
19:00開演 コンサートホール

楽器体験やダンスのワークショップ、東京芸術劇場内や周辺施設での無料コンサートも開催
※詳細は7月下旬に音楽祭公式サイトにて発表

【お問合せ】サラダ音楽祭 事務局 03-5444-2786 【URL】salad-music-fes.com

INFORMATION

リロ・パウアーによる演劇ワークショップ2018

2016年より大好評のリロ・パウアー(元コンプリシテ主演女優・演出家)による演劇ワークショップ。今年度は基礎を中心としたAコース「若手俳優・演出家のための演劇ワークショップ」を新たに開催します。また、3年目となるBコースは、いよいよクリエイションを視野に入れたステップアップを目指します。

Aコース: 若手俳優・演出家のための演劇ワークショップ 10月21日(日)~25日(木) 連続5日間	Bコース: 中堅俳優・ダンサーのためのクリエイションに向けた演劇ワークショップ 10月29日(月)~11月16日(金)のうち 全15日間 ※最終日はショーイング
--	--

【お問合せ】東京芸術劇場 人材育成担当 03-5391-2116 応募方法・詳細はHPへ

鑑賞サポート | 目や耳の不自由な方を対象に、舞台・公演説明会、字幕機提供サービス(対象日限定・無料・要事前申込)等を実施しています。詳細は事業ごとに異なります。

7~9月 対象公演	ランチタイム・パイプオルガンコンサートVol.127 ナイトタイム・パイプオルガンコンサートVol.23 ランチタイム・パイプオルガンコンサートVol.128	藤田貴大新作公演「BOAT」 NODA・MAP第22回公演「眞作 桜の森の満開の下」 【お問合せ】東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296
--------------	---	--

当劇場では、2018年5月7日(月)~7月20日(金)の期間、コンサートホール内にあるエスカレーターの改修工事に伴いコンサートホールを一時休館しています。ご利用・ご来場のお客様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒、ご理解のほどお願い申し上げます。



リロ・パウアー

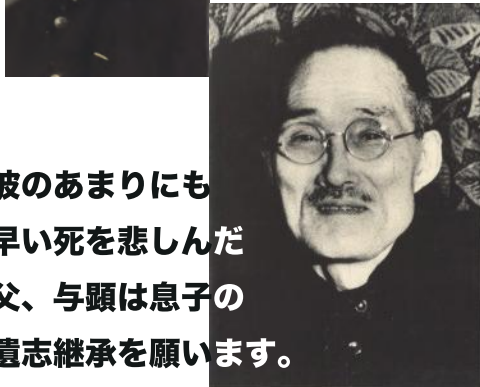
1948年、
焼け跡に残る
東京・池袋。
すべてはここから
始まりました。

演劇を志したひとりの青年、野尻徹。
彼は幸運にも復員し、池袋で演劇活動の拠点、
「スタジオ・デ・ザール」を開設しました。

「地に落ちた一粒の麦、徹死して幾百幾千の
舞台人となって実るであろう事を」



しかしその志半ば、
彼は27歳で
この世を去ります。



彼のあまりにも
早い死を悲しんだ
父、与願は息子の
遺志継承を願います。



1948年9月13日、与願は
演劇を渴望した息子、徹の遺志

を継ぐべく、私財を投じ、
若者が演劇に打ち込むための場
「舞台芸術学院」を創立しました。



以来、70年の年月が流れ
息子から父へと継承された「思い」は、
わが国の文化芸術を支える
幾百幾千のアーティストとなって実り
今も受け継がれています。